

文理学部コンピュータセンター ニュースレター

準備室



Vol.1, No.1

1999年6月1日発行

編集：コンピュータセンター準備室
発行：コンピュータ委員会

TABLE OF CONTENTS

- ニュースレター発刊の辞
- 631(マルチメディア)教室使用開始
- 第一回センター準備室セミナー
- 各種お問い合わせ

ニュースレター発刊の辞：コンピュータ委員会委員長 鈴木正彦

今年度より、コンピュータセンター設立を目指して、「コンピュータセンター準備室」が創設されました。その活動内容を学部の皆様にお知らせし、皆様の研究・教育活動にコンピュータをより活用していただくことを目的として、広報紙「文理学部コンピュータセンターニュースレター」を発刊致します。

その発刊に当たり、コンピュータ委員会(コンピュータセンター準備室)を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

一昔前まで、コンピュータといえば、限られた一握りの専門家のための高価な道具でした。しかし、その時代は、すでに過去のものとなりつつあります。

現在、コンピュータをめぐる状況、すなわち情報環境は、目まぐるしい発展を日々遂げています。コンピュータ単体の技術や性能の発展もさることながら、それらを相互に接続した全世界的な電子情報網、いわゆるインターネットの発展は、目覚ましいものがあります。そして、このインターネットを媒体とした全世界規模での様々な情報の流通は、政治・経済・文化の動向、あるいは科学の発展に大きく関与するようになり、情報化社会が、今、まさに到来しようとしています。

こうした社会状況のなかで、コンピュータは、研究・教育の現場や企業ばかりではなく、家庭にも深く浸透する兆しを見せています。そこでは、コンピュータは、専門家の複雑な計算の処理を行う専門家のためだけの特別な道具として使われるのではなく、日常生活に密着した必需品となってきているのです。

大学においても、研究・教育のための道具として利用されることはいうに及ばず、マルチメディア情報の伝達手段として、あるいは日常のコミュニケーションの手段として、急速に必要性を増しています。

このような時代の要請を受けて、文理学部においても、コンピュータ設備の整備ならびにコンピュータ教育の充実を推進し、その中心的な存在として、コンピュータセンターを近い将来に設立することが急務であるという学部執行部の判断から、コンピュータ委員会が昨年度より発足致しました。

そしてコンピュータ委員会は、昨年度一年間にわたり、

学部長からの諮問内容である「既存のコンピュータ設備の運用整備」及び「コンピュータセンターの設設計画立案」を二大基本方針として、積極的な活動を続けて参りました。

第一の基本方針である「既存のコンピュータ設備の運用整備」の一環として、コンピュータ実習室4室及び124就職情報室の充実と160台のノートPCを設置した631マルチメディア教室の新設、さらに光ケーブルによる高速ネットワーク幹線の再構築などが着々と実現しつつあります。また、このような設備の整備と平行して、コンピュータ教育も充実しつつあり、今年度より、631マルチメディア教室を用いた大規模コンピュータリテラシ教育が開始されています。

さらに今年度、もう一つの基本方針である「センターの設設計画立案」の具体化として、コンピュータセンター設立準備の実務を担う組織、コンピュータセンター準備室が創設されました。

コンピュータ委員会は、今後コンピュータセンター準備室を中心として、近い将来のコンピュータセンター設立を目指して、下記の項目を中心に活動して行くつもりです。

- (1) ネットワークを含めた学内情報基盤の整備・運用
 - (2) コンピュータ初期教育の整備
 - (3) コンピュータ設備・利用方法のサポート
- 皆様のご理解とご支援をお願い致します。

さしあたってコンピュータセンター準備室の今年度実施業務の手始めとして、教職員の皆様を対象に、第一回センター準備室セミナーと題して、学内情報基盤の整備・運用方針に関する説明会(裏面参照)を開催し、今後2・3年先を見据えた学内情報基盤の整備・運用方針に関するご説明をしたいと考えております。先生方の研究・教育環境とも密接な問題ですので万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。



631(マルチメディア)教室使用開始



●160台のノート型パソコンを備えるマルチメディア対応教室

教室にはどの席からも見える位置に大型のモニター8台が設置されている。このモニターには教卓上のノートパソコンの画面や、資料提示カメラ画像の表示ができる。さらにDVDとS-VHSデッキおよびRFケーブルを設置し、さまざまなメディアの活用可能なマルチメディア教室としての利用が可能である。

教室に設置されているノート型パソコンには、WindowsNT Workstation ver.4.0が導入されており、他の実習室と同じ環境が実現されている。机の天板の下にパソコンとマウスが収納されており、電磁ロックにより施錠することができるため、パソコンを使用しない他の用途にも利用することができる。



●蓋をすれば一般教室としても利用可能

ノートパソコンに現在インストールされているソフトウェアはマイクロソフトオフィス97プロフェッショナル版やWWWブラウザ等があり、WindowsNTアカウントを所持していれば使用可能である。また全コンピュータは文理学部LANに接続されており、インターネット上の情報アクセスや電子メールの利用もできる。

631教室ではコンピュータ入門Ⅳや心理学情報処理実習Ⅰ・Ⅱ等のコンピュータを活用した授業が開講されている他に、イギリス文学史Ⅰや国文学特殊講義Ⅰといった一般の授業も開講されている。

このような多目的に利用できる教室のパイロットシステムとしての631教室に関して、各位からのコメントをコンピュータ委員会は歓迎致します。

電子メール：center@chs.nihon-u.ac.jpまで。



●電磁ロックによって蓋を開閉

● 第一回センター準備室セミナー

コンピュータ委員会では、コンピュータ及び情報基盤に関する説明会や講演会をセンター準備室セミナーとして定期的開催する予定であります。その第一回目として、文理学部の情報基盤の現状及び今後の整備・運用の予定と将来への展望について、下記の日程で教職員に対する説明会を開催致します。文理学部の情報環境にご関心のある皆さまのご来場をお待ちしております。

日 時：6月24日(木)午後3時～5時

実施場所：631教室(6号館3階)

対象者：文理学部教職員

内 容：コンピュータ教育の現状と将来像

コンピュータ設備の現状

現在進行中のコンピュータ設備の整備(将来計画を含む)

各種お問い合わせ

コンピュータ委員会及び学内の情報基盤について：center@chs.nihon-u.ac.jp

文理学部ホームページ及び各種事務取扱について：www-admin@chs.nihon-u.ac.jp